

表示媒体の違いと読書の諸要素が誤りを探す読みに与える影響
—光環境とインタラクションに着目して—

The Effects on Proofreading Performance
by the Types of Display Media and Elements of Reading
—Focusing on Light Environments and Reading Interaction—

学籍番号：201521644

氏名：松山 麻珠

Asami MATSUYAMA

本研究の目的は、校正読みの場面に着目した「誤りを探す読み」の課題を用いて、それぞれ特徴の異なる表示媒体における作業効率を測定し比較することである。表示媒体の違いに加え、光環境やインタラクションといったそれぞれの表示媒体で異なる特徴や働きを持つ要素を組み合わせた条件で比較実験を行うことで、表示媒体間で読みの作業効率や性質が異なる要因についても考察を行う。

光環境に着目した実験では、(1)高照度×反射光、(2)低照度×反射光、(3)高照度×透過光、(4)低照度×透過光の4条件で誤りを探す読みの作業効率を比較した。その結果、高照度環境では反射光ディスプレイの作業効率が高く、反射光ディスプレイでは高照度環境の作業効率が高くなることが示された。当初想定していた完全な反射光条件(1)と完全な透過光条件(4)の間の有意差は認められなかったものの、高照度環境で可読性が上がる反射光、低照度環境で可読性が上がる透過光のそれぞれの特徴が表れた結果となった。紙媒体と電子媒体の読みの違いを探るという目的に立ち返ると、その要因は、反射光・透過光の違いと光環境の組合せによって生まれるものである可能性が示唆された。

インタラクションに着目した実験では、表示媒体（紙・iPad Pro・PC）とインタラクション（接触不可・接触可・書き込み可）を組み合わせた9条件で誤りを探す読みの作業効率を比較した。この実験では、これまで文章のみの課題を対象としていた誤りを探す読みの幅を広げ、文章のみ、図表とその説明文、絵の間違い探しの3種類の課題を作成した。

実験の結果、紙とiPad Proでは、接触不可条件と比較して接触可・書き込み可条件のほうが作業効率が高く、PCでは、接触可・書き込み可条件と比較して接触不可条件のほうが作業効率が高かった。また、表示媒体間では、紙とiPad Proの間で作業効率の差はなく、紙・iPad ProとPCの間に、インタラクションとの組合せによる作業効率の差が認められた。その他、問題の種類によって作業効率が異なった条件もあり、読みの性質によって効果的な表示媒体とインタラクションの組合せが異なる場合があることが示された。

研究指導教員：池内 淳

副研究指導教員：宇陀 則彦